



自己紹介

- 名前: マリック ジャイタ
- 留学国: 韓国
- 留学先: Kyung Hee University
- 推薦RC: 大和
- ホストRC: Yongin

● 韓国での生活

開発経済に興味があるため、KHUでは経験豊富な教授から学べる経済中心のカリキュラムを毎学期組んでいます。理論だけでなく、開発プロジェクトの実施から終了後までのプロセスなど、実践的なスキルを学べる授業が豊富で、楽しく勉強しています。授業以外の私生活では、韓国語が必要になることが多いため、学業に加えて外部の韓国語のレッスンも受けています。私の学科には、さまざまな国からの学生が在籍しており、とてもグローバルな環境の中で、活発に、楽しく、そして忙しく、日々勉強に励んでいます。

● グラミン銀行本部でのインターンシップ

2024年7月から1ヶ月間、バングラデシュ・ダッカにあるノーベル賞を受賞したグラミン銀行本部でインターンシップをさせていただきました。本部では、特定のローン提供の最終確認を行うことが多く、その確認作業を担当したり、ゲストにグラミン銀行独自の仕組みについてプレゼンテーションを行ったり、現地調査後にはレポートを提出することもありました。現地調査では、バングラデシュで珍しい習慣である「discipline」が根付いた集会やローン収集の様子を見学し、ローンを借りている女性へのインタビューもさせていただきました。これらの体験はとても貴重で、学びの多い経験になりました。



● 韓国とバングラデシュで体験した民主主義国家の危機

私がバングラデシュに滞在していた2024年は、バングラデシュにとって歴史が変わった年となりました。クォータ改正運動から始まった学生デモが激化し、最終的には大統領が退陣する事態にまで発展しました。滞在中、私はこの混乱に巻き込まれ、破壊されていくインフラや街並み、夜に響く銃声や人々の叫び、襲撃の恐怖に怯えるマイノリティの現状を目の当たりにしました。私たちへの情報や行動も徹底的に制限され、平穏な日常と今まで積み上げてきた発展のプロセスが一瞬で崩れていきました。騒乱の中で、発展がいかに無力で脆いものであるかを目の当たりにしたことは、開発経済を学び、途上国の発展に関わりたいたいと考える私にとって衝撃的な現実でした。韓国へのフライトを早めることになりましたが、韓国に到着しても非常戒厳の混乱に巻き込まれ、韓国全土に広がる不安やデモを目撃しました。このような混乱の中でも、ホストRCやロータリー財団の皆様からは頻繁に連絡をいただき、大使館の情報を提供していただいたり、私の安否やフライト情報について気遣っていただきました。明日何が起こるかわからない状況の中で、ロータリー財団の皆様の温かいケアには非常に励まされました。

2つの国で民主主義が一夜にして揺らぐ様子を経験した2024年は、貴重な経験であったと同時に、私が経験した不安や恐怖を他の人々が決して感じることはない未来を願う年となりました。